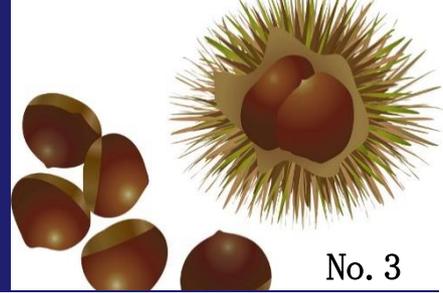


# 協力隊通信：美和地域

岩国市美和総合支所 農林建設課

地域おこし協力隊 沖野 修吾

TEL0827-96-1112



No. 3

前回ご報告した系統樹の保全活動についてご報告します。

「岸根ぐり」は日本で初めての和栗の認定品種で現在の和栗の品種には必ずと言ってよいほど岸根の系統が入っている元祖的な存在です。

ですがその認定されていた品種を守るための系統樹も老木化等で消滅の危機にあります。

## 系統樹を守る町の母樹園

### 歴史

- 昭和38年に山口県美和農業改良普及所が系統の乱れを危惧し、本物の岸根ぐりに統一し、主産地の中身を整理することが大切だと提唱。
- 岸根ぐり名付けの親、西村翁らが岸根河平の原木林から優良系統を選抜し田ノ口地区に接木した栗園の中から更に4本を選び出し、母樹として町営クリ母樹園を設置し同地に台木を新植し接木した。
- 昭和56年改植し接木を行っていますが、その後、ライスセンター設置などで70aから8aに縮小し、数本が残されている状態となっています。



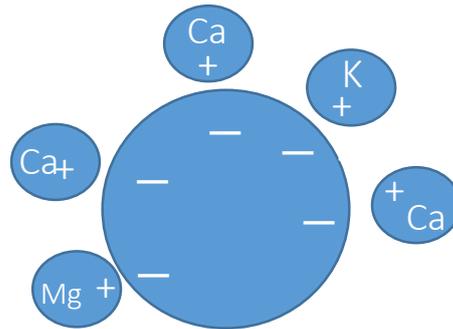
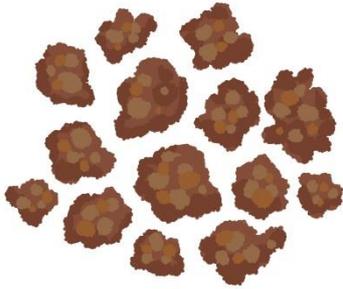
## 系統樹衰弱の要因は？

- 樹齢に伴う衰弱もありますが、カミキリムシ類の被害も目につきます。
- また、土壌が元々良くなかったとのことのお話もお聞きしましたので、県の岩国農林水産事務所の方々にもご協力いただき、土壌調査を行いました。



## ■ 土壌改良！

- 地質専門の方の判断は、赤土は粘土質の為、排水が悪いと粘土質が強くなり、水や空気の通りを悪くし、根の成長も妨げてしまうとの事でした。
- 自分なりに勉強し、良い土の条件は腐植がしっかりと含まれることにより、団粒構造で土壌の微生物や小動物が多く、住みやすい環境の状態であること。また、陽イオン交換容量が多く、保肥力が高い事が大切な要因であると認識しました。
- 岩国農林水産事務所の方々と相談した結果、先ずは暗渠排水をしっかりと設置し、粘土質を改善しつつ、客土や廃土はせず、堆肥での土壌改良に取り組もうという決断に至りました。



## ■ 堆肥（有機物）の効果

- 土壌の有機物は微生物により分解され、微生物の増殖と死滅の中で窒素成分は、アンモニア、硝酸となり植物に吸収されたり溶脱したりして最終的には消滅します。
- しかし、実際には動植物遺体の一部は分解される化学変化の過程で、土壌にとどまります。これが腐植で、色は暗色、構造は無定形の高分子化合物です。
- **堆肥＝有機物＝腐植とつながります。**
- 堆肥は、古くから使われてきた肥料のひとつで、枯れ草や枯れ葉などの植物や鶏ふん、牛ふんなどの家畜のふんなどを利用し、発酵させて作られます。近年では生ごみを利用した堆肥づくりも注目されています。
- 環境保全型農業が推進される中、有機物の利用が見直されており、中でも堆肥は、土壌改良剤としての効果や化学肥料に比べて地力維持に役立つこと、地下水汚染の心配も少ないことなどから、注目が高まっています。
- 堆肥に用いられる主な有機物。

牛ふん、豚ふん、鶏ふん、馬ふん、ワラ類、モミガラ、野菜（キャベツ、コマツナ、ハクサイなどの野菜の他、野菜クズなど）、オガクズ、バーク、せん定クズ、エノキタケ廃培地、家庭生ゴミ、事業系生ゴミ、オカラ、コーヒーカス、茶カス、ビールカス、焼酎カス、果汁カス、米ヌカ、アオサ

## ■ 岩国市には放牧場が！

- 自分が地域おこし協力隊として着任しているのは岩国市美和総合支所の農林建設課です。
- 農林建設課の課長の席の壁面に和牛のこよみが貼ってあります。
- 「和牛のカレンダー！ かわいいですね！」と課内で話しをしたら...
- 「課長は、牧場長だから」と聞こえました...
- 牧場長？ 続きは次号で！